

## ■ハイセイコー記念(SI)アラカルト(過去52回の分析)

---

※第1回(昭和43年)から第33回(平成12年)までは「青雲賞」の名称で実施

※第35回(平成14年)から第36回(平成15年)までは大井ダ1590mで実施

※第40回(平成19年)から第52回(令和元年)まではSIIとして実施

※第22回(平成元年)は2頭が3着同着

※記録は令和2年11月3日時点

### ■上位人気馬の好走率はまずまず

単勝1番人気馬は18勝、2着10回、3着7回で、3着内率が67.3%、単勝2番人気馬は10勝、2着12回、3着5回で、3着内率が51.9%、単勝3番人気馬は9勝、2着9回、3着7回で、3着内率が48.1%となっている。上位人気馬がそれなりに信頼できるレースと言えそうだ。

### ■3番人気以内の馬が上位を占めた例も多い

過去52回のうち37回は、単勝3番人気以内の馬が勝利を収めている。なお、単勝3番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は20回、単勝3番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は6回ある。

### ■牝馬は5勝、外国産馬は未勝利

牝馬の優勝例は第6回(昭和48年)のオロマツホース、第10回(昭和52年)のリマンドタイコウ、第23回(平成2年)のフジノリニアー、第29回(平成8年)のセイントサブリーナ、第44回(平成23年)のドラゴンシップと、計5回ある。なお、外国産馬の優勝例はまだない。

### ■騎手別の歴代最多勝記録は「8」

騎手別の勝利数を見ると、8勝の的場文男騎手が単独トップ。4勝の高橋三郎騎手が単独2位、3勝の赤間清松騎手と宮浦正行騎手が3位タイとなっている。

## ■ 調教師別の歴代最多勝記録は「4」

調教師別の勝利数を見ると、4勝の矢作和人調教師が単独トップ。3勝の朝倉文四郎調教師と佐藤賢二調教師が2位タイとなっている。

## ■ 外寄りの枠番が好成績

枠番別の勝利数を見ると、8枠（11勝）が単独トップ。7枠（10勝）が単独2位、4枠と5枠（各7勝）が3位タイとなっている。また、馬番別の勝利数を見ると、10番（6勝）が単独トップ。2番、4番、6番、7番、11番（各5勝）が2位タイである。なお、未勝利の馬番は14番と16番だけだ。